

5年生・総合的な学習の時間 「Q-den Walker」を作ろう

世田谷区立給田小学校
学校運営委員会通信・特別号

平成24年度 特別号
平成24年12月18日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健
編集
リエゾン・オフィス

東京のお勧めのスポットやお店が載っている情報誌「Tokyo Walker」（東京ウォーカー）という雑誌をご存知でしょうか。

5年生の総合的な学習の時間に「Q-den Walker（給田ウォーカー）を作ろう」という取り組みがおこなわれました。5年生が5〜6人の班に分かれ、給田・烏山の地域にあるお店や施設、場所などを取材し、「東京ウォーカー」のような地域を紹介するポスターを作り発表するというものです。

子どもたちが地域に愛着を持ち、地域を大切にしようとする気持ちを持つ。取材を通して地域の方がたとの交流を深める。自分の住んでいる地域を、自分の言葉で表現できるようにする。というのがこの授業のねらいです。

学校からの依頼で、リエゾン・オフィスが子どもたちの訪問先のコーディネートを担当しました。

訪問当日は子どもたちを引率、そして発表を見学し、その様子を「学校運営委員会通信・特別号」としてお届けします。

今号は、世田谷区から学校支援コーディネーターに支払われるコーディネート料で発行しています。

「Q-den Walker」
以下「QW」と表記

7月、先生がたとリエゾンとの打ち合わせで、授業のねらいを確認しました。昔からこの地域でお仕事をされているお店や、この地域にしかない所、給田小に関わりのある方、仕事のことだけでなく、この地域への想いを子どもたちに語ってくださる方という視点で、24か所の訪問先を選びました。

8月、授業の内容を書いたチラシを作り、取材協力のお願いに一件一件まわりました。



リエゾンで作成したチラシ

9月に入ってから、各クラス1回ずつ授業を参観し、子どもたちに訪問先の特徴や、質問を考えるヒントを伝えました。

「QWをやるとどんないいことがあると思う?」という先生の質問に、「仕事に分かる」、「給田のことを知らない人におしえてあげる」、「町を知って町と親しくなる」などの発言が次々と飛び出し、どんな気持ちで取り組めばいいのか自然に気づいていく様子や、どんな質問をすればいいかを真剣に考える様子を見ることができました。



5年1組の授業風景
「Q-den Walker」は何のために作る? 先生の問いかけに、子どもたちは一生懸命考えていました。

10月16日には2組と4組が、19日には1組と3組が、各訪問先で取材を行いました。両日とも、保護者の付き添いボランティアの方がたと共に、子どもたちの様子を見守りました。



下山千歳白菜（下山繁雄さん）
「屋敷林」を取材した子どもたちは、屋敷林の奥の畑で「下山千歳白菜」を育てている下山さんのお話も聞くことができました。

11月5日のポスターセッション（発表）には、取材でお世話になった地域の方がたとにもいらしていただき、参観の保護者など多くの大人が子どもたちに混ざって発表を聞きましました。どの班も自分たちが知ったこと、気づいたことをみんなに伝えたいという想いにあふれ、いきいきと誇らしげに訪問先の紹介をしていました。



ポスターセッション
友だちの発表を真剣に聞いていました。

また、訪問先の方とボランティアに参加した保護者の方々が再会し、あいさつを交わしたり、訪問先の方が発表を聞いていた子どもに説明したりと、新たな交流が生まれました。

後日、取材のお礼と子どもたちの様子をうかがいに再び訪問先に足を運びました。みなさんに優しい笑顔で迎えていただきました。どの訪問先も子どもたちと触れ合う機会を心から喜んで下さった様子に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

給田小地域運営学校のスローガン「みんなの子どもをみんな育てる」が地域にも広がりはじめたことを実感する取り組みとなりました。

リエゾン・オフィス

「リエゾン」とは、フランス語で「連携」を意味します。

現在は学校運営委員のOBが、**地域運営学校のビジョンを念頭において**、給田小が地域との連携を深めていけるようにサポートしています。

今年度は、「漢字検定の運営」「学校支援コーディネーター」の活動をしています。

「学校支援コーディネーター」は、世田谷区の委託事業で、今回のQWの他に6年「地域ボランティアに取り組もう」や4年「昔らべ」の授業のお手伝いをしました。現在、1月に実施される2年生の「昔あそび」と、2月の漢字検定に向けて準備をすすめています。

子どもたちの感想とともにご紹介します

畑



杉田竹次郎さん

杉田和明さん

・私は、杉田さんがすごく気持ちをこめて野菜を作っていることがわかりました。誰が作った野菜でも感謝して食べたいと思いました。
 ・ほくも将来、自分の畑で野菜を作って地域の人に喜んでもらいたい。

盆栽



麻生則行さん

盆栽の世話で旅行に行けない麻生さんに旅行券をあげて、代わりに盆栽の面倒をみたい。

サンエイ ショッピングセンター



魚専門店 魚卵



精肉部

・いつもスーパーにしか行かないので、サンエイショッピングセンターにたくさんお買い物をしに行きたいと思った。
 ・サンエイショッピングセンターで働いてみたいと思った。

池亀畳店



池亀哲也さん

池亀畳店の発表を聞いて、畳を大切に扱おうと思いました。畳で遊んだり、いろいろなことをしたいです。



野菜・果実部



菓子部

宍戸コンクリート



工場長・安井さん

・安井工場長さんに会ったら「この前はありがとうございました！すごく参考になる内容でした！本当にありがとうございました！」と言いたい。
 ・地域の人のために保存している飲料水があり、とても地域のことを思っているんだなと思った。

烏山区民センター



奥倉さん

山本さん

この地域が住みやすいところだと思った。これからは区民センターでやっているお祭りなどに参加したい。

山田動物病院



山田寛一さん

いつ、どんなことが起こるかわからないので、とても大変そうだった。

幸龍寺



小島義孝さん

お坊さんは、礼儀が正しくて言葉づかいもちゃんとしていてすごいなあと思った。

なかむらや酒販



六戸和良さん

六戸善行さん

質問内容に書いていなかったことも教えてくれてうれしかった。QWは自分の成長だけでなく、地域に住んでいる人たちとの交流が深まるので、いい学習だなと思いました。

千歳烏山駅



助役・三浦さん

駅でゴミなどを捨てない。もし捨てている人がいたら注意する。

給田郵便局



局長・梅野さん

・ポストに手紙を入れるだけで、世界中に届けてもらえる郵便の制度はすごい。郵便局の方がたに感謝します。
 ・情報の伝え方を学べた。郵便局の人は地域の方に来てもらう工夫をたくさんしていた。
 ・メールだけでなく、手紙で気持ちを届けるのもいいと思った。

北烏山駐在所



程原剛さん

みんなが安全に暮らせるのは駐在所のおまわりさんが、みんなの知らないところで活動してくれているからなんだなあ、と思いました。

ご協力いただいた地域のみなさま

大輪印刷



大輪伊助さん

・社長さんがいい人だった。また会いたい。一生忘れなない。
・宍戸さんの祖父が古民家を寄付してくれたことを給田小のみんなに伝えたい。古民家を大切に使う。

ファミリーマート あぶらや給田3丁目店



池亀恵二さん

池亀優子さん

店長さんが給田の地域を大切に思っていることを知ってよかったです。将来、ファミリーマートでバイトしたり、宣伝したりしようと思う。

伊藤精米店



伊藤弘康さん

伊藤さんが心を込めてお米を精米して、地域の人においしく食べてもらうように頑張っているように、私も給田をきれいにしたり、あいさつをしてよりよい地域にしていきたい。

鳥山児童館



古川館長と職員のみなさん

児童館のイベントに参加して、違う学校の人と仲良くなりたいたい。

丹羽植木



竹村達夫さん

緑を増やしたいという話を聞いて、私たちが緑を減らさないように大切にしたいと思った。

田中石油



田中啓介さん

ガソリンスタンドの人にあこがれたので、将来ガソリンスタンドでアルバイトをしたい。

JAファーマーズマーケット



チーフ・小松さん

みんなにJAの野菜のおいしさや新鮮さを伝えたい。将来、もしできることならば、給田の地域で農業をして地域にこうけんしたいです。もしできなくても、この地域の野菜を買い続けたい。

大富工務店



高橋雄二さん

家の設計図を手書きやコンピューターで書いて一生懸命家を作ることがわかったので、自分の家も大事に使いたいです。

ベルフォート



戸羽清治さん

お客さんの笑顔が見たいという思いで仕事をしていてすごいと思った。今度写真を撮ってもらいに行きたい。

寝・生活すぎた



杉田長治さん

長年やっているからこそ、地域の人が何度も来てくれるということ大切にしていることがわかりました。あいさつなどにも気を使っていてすごいと思います。

屋敷林



世田谷トラスト
まちづくり・小林さん

みんなに、夏はすずしい、秋はキンモクセイのいいにおいがするし、どんぐりもおちていることを知らせたり、下山さんが育てた白菜などをかう。

鳥山総合支所



地域振興課
渡辺さん

鳥山に住んでいる人たちは地域のために何かしたいという気持ちがあるから、そういう人たちの影の努力があることを忘れず感謝していきたい。ボランティアなどに取り組み地域を活性化させたい。



5年担任の先生がたに「Q・d・e・n Walker」といって話をうかがいました

「自分のクラスの相手先を訪問した時の印象を教えてください。」



みなさんとても好意的で、「今年もまた来てくれるの!」と言っ方が多かったので、

過去にお邪魔した学年や「コーディネーターの方がたがいい関係を保ってくれているから、そういう風に受け止めて下さるんだな」と思いました。とても協力的で、ありがたく思いました。



私が訪問したところは、「子どもたちを喜ばせてあげたい」という気持ちを持っていらっしやいました。そう思ってくださる分、どんなことをしてあげれば良いかと、不安そうな様子をしている方もいらっしやいました。



今回、子どもたちに「地域に根付いたところ」をピックアップしていただいたので、地域のトリビアのような話や働く人が地域に対してどう思っているか聞かせていただけて、すごく良かったです。、地域の方が自分の想いを語ってくださると、子どもも真剣に受け取って聞きます。そして「地域の人の交流が深まって良かった」と実感したようです。

その場所が良かったのではなくて、地域の人のつながりを喜んでるんですね。



「想いを知ることができて良かった」「交流できて良かった」そんな風に感じていました。それが僕自身いい学習だなと思いましたが、子どもたちも「QW、本当にいい学習でした」と感想を書いていました。

今回、各クラスの授業に参加させていただきましたが、いかがでしたか。



一番最初の「なんのためにQWをやるのか」という目的のところでもリエゾンのみなさんに熱い想いを語っていただいたことで、子どもたちの中で目的がはつきりしました。そこで高まったモチベーションが最後のまとめのところまで続いて、「QW本当にいい活動だった」という感想につながったんだと思います。



「給田・鳥山地域にこんな場所があった」だけではなく、「いろいろな人がいる」と知ることができて良かった。「その人たちが地域のために頑張っていることがわかった」という、想いの面の方が加わってきたのは、地域やリエゾンのの方がたが積極的に関わってくれたからだと思います。



発表の時には、訪問先の方が数多く来てくださいました。保護者の方ももちろんですが、多くの方が来てくださったことが子どもたちのモチベーションにすごくつながっていると思います。教室で練習している

時とは様子が違い、とても生き生きしていました。聞いてくれる人がいる、発信して受けてくれる人がいるということが子どもたちの次への意欲につながると思うので、学習したら発信できるということとは、とても大切だと思っています。

発表があったことで、地域の人の想いや給田の良さを伝えたい」と感じた子がたくさんいました。



「地域の方の想いや給田の良さを伝えたい」と感じた子がたくさんいました。

訪問先の方がたも発表を見て、「子どもたちが自分の気持ちを受け止めてくれたことがわかって、すごく嬉しかったです」とおっしゃっていました。



お礼に子どもたちの顔写真と作成したポスターの写真を持って行くと、みなさん「こんな風にまとめてくれたんだ」と喜んでくださいました。



みなさん本当に喜んでくださって、「またぜひ来てください」なんて言葉をいっぱいかけていただきました。こっぴどい地域とのつながりが深まっていくのは、素敵なことですね。私のクラス訪問先は、「ご自身やお子さんが給田小の卒業生という方が多く、給田小に対して愛着を持っていらっしやる方が多かったのですが、今回のQWを通して、子どもたちを気にかけてくださる気持ちが強まったように感じました。

学芸会にも来てくださっていましたね。一度子どもたちと関わることで、運動会や学芸会などの行事のときも、「子どもたちを見に行ってみよう」と思っていたのは、嬉しいですね。子どもたちを見る目に温かさを感じました。



保護者の方も、当日の付き添いボランティアでは大きいグループを見ていただきました。普段関わりがなかったお子さんも見ていただいて、あとで様子を教えてくださいました。そんな風に、いろんなお子さんを見ていただけるのもいいなと思いました。

多くの子どもたちが、取材という形で地域の方と交流を深め、地域を大切にしようとする気持ちを持つことができました。そして地域の方がたの想いに自分の想いをのせて、たくさんの人に伝えていました。先生がたのご指導はもちろんです。地域のみなさんのあたたかい気持ちに支えられ、給田小の目指す地域運営学校らしい取り組みになりました。ご協力、ありがとうございました。



1組 坪松章人先生



2組 荒川妙子先生



3組 温井千寿子先生



4組 安部克則先生